

関ヶ谷市民の森愛護会

(平成 19 年度第6回役員会の報告等)

平成20年3月2日

愛護会活動について思うこと

私が少年時代を過ごした信州(善光寺平)で顔に当たる程乱舞していた“ほたる”を麻の蚊帳の中に放して楽しんだものである。

一昨年、関ヶ谷自治会の“ほたる狩”で案内役を務められた戸次さんの奨めで愛護会に入会した。その頃に「ほたるの里復活作戦」の話が持ち上がった。

偶々同じ日に愛護会に入会した吉田さんのほたるへの思い入れは相当なもので、“ほたるの里”の立派な構想案が役員会に示されるまでには時間を要しなかった。構想案を討議するにつれて、会長から『吉田—篠原コンビで本プロジェクトを推進して欲しい。』と要請され、リーダーを引き受ける羽目になった。

会長から、『緑化基金の助成金(上限 100 万円)を申請するように行政側から示唆されたので挑戦したい。』との提案があり、役員会で合意が得られた。リーダーの初仕事は、申請書を取り纏めることであった。

基本事項(4頁)の他にほたるの里の構想案や工程表及び愛護会の活動実績などを含めて 20 頁の申請書を 1 週間で纏めて一昨年の 10/30 に提出した。

基金の土井氏(窓口)にヒアリングの実施を申し入れた。前例なしとして否認されたが、審査委員会にはその意向をキチント伝えるとの言質を得た。

昨年の 2/1 に土井氏から『全国から 170 件の申請があり、「ほたるの飛ぶ森プロジェクト」など 20 件が内定している。』とのメッセージが飛び込んで来た。私は『80%は認許される。』と関係者に公言していたので当然と受け止めた。

6 月には放流会を行うとの大きな目標に向かっての泥まみれの熟年パワーの成果により予定通りに完成した。細部については紙面の関係で今回は割愛する。

昨年の 6/3 に放流会を行い、7/6 のほたる鑑賞会に先立って、6/26 に初飛翔を観測した時の感動は名状し難いものであった。

放流会を終えると、9 月中に精算を受けるために、活動完了報告書及び助成金精算報告書を 7/20 までに提出する必要があった。

報告書は 1 ヶ月掛けて 70 頁に纏めた。前半は 50 枚の写真(大半は会長の尽力)を含めて 40 頁、後半は 45 枚の領収書を含めて 30 頁となった。

本プロジェクトを概観すると、一昨年の 8/27 のプロジェクト発足会議を皮切りに、一昨年の 9/9 に現地の測量を実施し本格的な活動を開始した。感覚的な数値ではあるが、参加延べ人員は約 300 名で、実働日数は約 150 日であった。総経費としては、当初計画より 3,700 円の超過になったが、基金の助成金 97.5 万円に愛護会予算 11 万円を加えた約 120 万円で納まった。

また、本プロジェクトの成功要因は、「追越の池」の湧水を貯水して幼虫の飼育場所が確保できると見抜いた吉田さんの眼力、緑化基金の助成金の獲得及び熟年パワーの結集の 3 点に集約されると考えている。

昨年度は、ほたるプロジェクトで購入した多数の工具や器具が道具物置の床面を占有し、工器具管理者として放置出来なくなった。これがキッカケとなり、木工の趣味が刺激されて、整理用小物作りに深入りすることになった。

物置のデッドスペースを如何に安い素材で多機能化するかは、アイデア勝負である。このアイデアは、トイレやプールで思い付くことが多く、例の“ごみスタンド”は、トイレでの産物である。小物作りの至福の時間が得られたことも愛護会活動の大きな魅力の一つである。

愛護会に入会して足掛け 3 年になる。活動日の作業終了後、奥座敷の簡易ベンチに車座になって談笑する元気な顔々が並ぶ光景を眺めることを毎回楽しみにしている。この談笑が愛護会活動の活力の源泉である。

最近、色々な活動で知り合った元気な仲間を観察する内に、フト自己流の“若さ係数”を考えるようになった。年齢の割りには若く見える人(若さ係数が高い人)には、3 つの共通性(要素)がある。第 1 の要素は好奇心が旺盛なこと、第 2 の要素は食欲が旺盛であること(心身共に健康である)、そして第 3 の要素は人に対する関心度が高いこと(気配り)である。この“若さ係数”は、3 つの要素の掛け算(積)で決まるように思われる。

古希を迎えても“若さ係数”を高く維持するために、竹の子掘りや門松作りを楽しみながら、自然体で愛護会活動等への好奇心を持続したい。

(篠原)

以下は、平成20年3月1日開催の「定例役員会」における審議事項等です。

[I] 今後の活動予定

- 3月 2日(日) 公式活動日(炭焼きを午前7時に開始します)
15日(土) 公式活動日(活動時間中に炭焼窯を開きます)
4月 6日(日) 公式活動日
19日(土) 公式活動日
5月 4日(日) 公式活動日(炭焼きを午前7時に開始します)
17日(土) 公式活動日(活動時間中に炭焼窯を開きます)

(注) 公式活動日は、原則、各月の「第一日曜日」と「第三土曜日」とします。

[II] 今後のパトロール予定

3月 2日(日)	外山 カオル	塩山 裕子
9日(日)	吉田 文雄	山口 精一郎
16日(日)	徳岡 正彦	松原 勉
23日(日)	松本 哲朗	梁瀬 勉
30日(日)	宮本 英利	宮本 久美
4月 6日(日)	日高 清之	中村 清一
13日(日)	野路 美智恵	森 紀美江
20日(日)	戸次 鎮治	戸次 明子
27日(日)	入部 信寿	吉川 征治
5月 4日(日)	大木 通宏	加藤 文明
11日(日)	橋本 順二	橋本 弘子
18日(日)	平野 利治	星野 洋
25日(日)	池田 陽一	飯野 光吉

(注) パトロールは、「巡回チェックリスト」に従って実施し、その「チェックリスト」は徳岡総務担当役員宛、電子メール()はFAX()にてご報告下さい。

[Ⅲ] クラブ活動等の概況

当会のクラブ活動は、「ほたる復活クラブ」、「木工クラブ」、「園芸クラブ」の三つのクラブで行われています。会員は、どのクラブへも、いくつのクラブでも、自由に入会できます。入会希望は、いつでも希望するクラブのリーダーか役員にお申し出下さい。また、或るクラブに入会しておられなくても、そのクラブのその時の活動にご関心があるときはその活動に自由にご参加戴けます。因みに、「炭焼き事業」に係る活動は、愛護会の全体事業として行っていますので、これまたいつでも熱烈歓迎です。。

なお、各クラブのリーダーは、次の通りです。

「ほたる復活クラブ」のリーダー： 宮本会員（3/1 付けで吉田→宮本）
「木工クラブ」のリーダー： 戸次（鎮）会員
「園芸クラブ」のリーダー： 日高会員

（イ）ほたる復活クラブ

行政（水道局）からの要請により、「ほたるの里」内の公道上に構築されていた「ほたる幼虫飼育用ログハウス」を「市民の森」内に移設することとし、2月24日取敢えずの解体を了した。移設の時期および場所は、4月以降とし、「いこいの広場」の西北隅を予定している。

なお、今シーズンのほたる幼虫の飼育については、戸次、橋本、松本、永田会員他外部支援者2名の方々により、合計約750頭の「ハイケボタル」を飼育願っているが、来シーズン（本年9月以降）は、「ゲンジボタル」の幼虫飼育も必要となろう。お孫さん達への勉強を兼ねて飼育体験を希望される方は、ホタル・リーダーまたは役員まで、お早めにお申し出下さい。飼育用の容器・器具類および必要なら餌等は、愛護会から供与致します。

（ロ）木工クラブ

階段補修は3月2日の活動日で完了。3月15日以降は、「たけのこの道」沿いの竹垣および生垣の修理を本格化する。

（ハ）園芸クラブ

腐葉土造りの囲いが更新されつつある。「いこいの広場」から「すぎこだちの道」を30m程上った左脇の杉木立の日陰に、ログを素材とした広めで頑強な囲いに生まれ変わる。

（ニ）炭焼き事業

3月2日（日）の公式活動日午前7時から炭焼きを実施した。この窯開きは次回公式活動日3月15日（土）に実施する。また、次回炭焼きは、5月4日（日）公式活動日の午前7時から行う。お手伝い戴いた会員には、竹炭と竹炭液を差し上げます。

[IV] 第6回定期年次総会の開催について

開催日時： 平成20年4月12日（土）午前11時～午後2時

開催場所： 山の手自治会館（釜利谷西2丁目10-4）

（注）総会は1時間程度で終了する見込みです。総会后、簡単な昼食を用意し、ご来賓および会員相互間の歓談を予定しております。後日、往復はがきにより、出席の有無を確認させていただきます。

[V] その他

(イ) 「たけのこ刈り」について

4月恒例の「たけのこ刈り」は、「たけのこ」の生育度を見ながら実施日を決定します。今年も、例年通り、4月の中下旬になる見込みですが、実施日が確定され次第、電話連絡網により通知連絡致します。乞うご期待。

(ロ) 「ほたる復活クラブ」リーダーの交替について

現リーダーである吉田相談役から、職務多忙につき「ほたる復活クラブ」のリーダーを辞したいとの強い申し出があった。3月1日の定例役員会の場で何人かの適任者に後任を打診するも引き受け手がないため、止むを得ず、素人ながら宮本会員がピンチヒッターとして、当面、リーダーを代行することとされた。

(ハ) 臨時役員会の開催について

「第6回定期年次総会」へ諮る議案、議題、提出資料等を審議確定するため、4月6日（日）午後7時から、「山の手自治会館」において、「臨時役員会」を開催致します。

(ニ) 次回定例役員会について

次回定例役員会は、5月3日（奇数月第一土曜日）午後7時から、「山の手自治会館」において開催します。

関ヶ谷市民の森愛護会会長 鈴木 勲

（文書担当：宮本英利）